

令和三年度（二〇二二年度）哲学教室彙報

学事日程

二〇二二年四月五日 ガイダンス（オンライン）

二〇二二年一〇～一二月 修士論文・卒業論文中間発表会（木曜日三・四限「哲学討論」にて順次開催）

卒業論文

- 赤沼 裕太 「関連性理論における「関連性」の定義と発話の解釈手順の具体性について」
- 飯田 楓子 「ヒッピアスの変化からみる「美」の言語化の意義——プラトン『ヒッピアス（大）』より——」
- 岩田 理絵 「日本環境NGOが高度なアドボカシーをするには何が必要か」
- 岡崎 亮我 「『プロタゴラス』における快樂説について」
- 尾花 拓篤 「ショーペンハウアー思想と現代の出生」
- 片山 俊大 「義務違反条件文における前件の内容」
- 齊藤 葉子 「アイヒマンの〈陳腐な悪〉をめぐるアーレントの道徳哲学」
- 竹内 大祐 「ジョルジュ・バタイユの〈禁止と侵犯〉論における自由の問題について」
- 堂籠 芽生 「生死の選択の自由についての考察——ショーペンハウアーの自殺論を手がかりに——」
- 富谷 建 「現在の民主主義における公衆の没落という課題」
- 難波 杏樹 「人間は動物を殺しても良いのか」
- 村松香奈子 「アリストテレスのアクラシア論」

山田悠紀菜 「アリストテレス『詩学』の誤読と三一致の法則について」

和田 開 「アリストテレスの幸福と運・不運の関係」

教員の業績

石川 求

〔研究論文〕 「体験と沈黙——それぞれの反戦——」、鈴木道彦・海老坂武（監修）『竹内芳郎 その思想と時代』閏月社、二〇

一二年

栗原 裕次

〔研究論文〕 “Two Images in Plato’s Statesman 277a-d” in *The Journal of Greco-Roman Studies*, Vol. 60-3, The Korean Society of Greco-

Roman Studies, pp. 183-196 (12/31/2021)

〔学会発表〕 「プラトン『政治家（ポリテイコス）』にみる「人の支配」と「法の支配」」（京都へーゲル読書会 令和三年度夏

期研究会、オンライン）、二〇二二年六月二七日

木田 直人

〔研究論文〕 「創ること」、『哲学を創造する年刊誌 ひとおもい 3』（東信堂）、二〇二二年七月、五〇三八頁

〔編 集〕 『哲学を創造する年刊誌 ひとおもい 3』（東信堂）〔編集および「特集に当たって」担当〕、二〇二二年七月

井原健一郎

〔研究論文〕 「デカルトの循環（二三）」、『人文学報』（東京都立大学人文科学研究科）第五一八―八号（今号）、二〇二二年三

月、一〇三七頁